

「第5次長崎県犯罪のない安全・安心まちづくり行動計画」(素案)に対する
パブリックコメントの募集結果について

「第5次長崎県犯罪のない安全・安心まちづくり行動計画」(素案)について、
パブリックコメントを実施しましたところ、貴重なご意見をいただき厚くお礼
申し上げます。

いただいたご意見に対する考え方をまとめましたので公表します。

1 募集期間

令和7年12月15日(月)~令和8年1月14日(水)

2 募集方法

電子申請、郵送、ファクシミリ

3 閲覧方法

- ・県ホームページに掲載
- ・県交通・地域安全課、県政情報コーナー(県庁県民センター内)
- ・各振興局行政資料コーナー(長崎振興局を除く)

4 意見件数

14件

5 意見の反映状況

対応区分	対応内容	件数
A	・案に修正を加え、反映させたもの	6
B	・案に既に盛り込まれているもの ・素案の考え方や姿勢に合致し、今後、具体的な対策を遂行する中で反 映させていくもの	8
C	・今後検討していくもの	
D	・反映が困難なもの	
E	・その他(ご提案、ご意見、ご感想として承るもの)	
	合 計	14

番号	区分	頁	意見の趣旨	県の対応・考え方
1	A	1	<p>計画策定の趣旨の本文中で「匿名流動型犯罪グループ（トクリュウ）」と記載されていますが、一般県民には馴染みのない警察用語であり、具体的にどのような集団か（暴力団との違いなど）がイメージしにくいいため、</p> <p>①初出時に注釈を加え、「SNS等を通じて集められた面識のないメンバーが、強盗や詐欺などの離合集散を繰り返す犯罪グループのこと」と平易な説明を追記する。</p> <p>はいかがででしょうか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、県民の皆様に分かりやすくお伝えするため、「計画策定の趣旨」に注釈を追加します。</p> <p>※変更後の記載 注)匿名流動型犯罪グループ（トクリュウ）とは、SNSやインターネット掲示板を通じて実行役を募集し、メンバーが互いの素性を知らず、流動的に入れ替わりながら二セ電話詐欺や強盗などの犯罪を繰り返す集団を指します。</p>
2	B	2	<p>「トップレベル」という表現は曖昧です。資料の注釈で「第2位から第5位」とありますが、目標として「トップレベル」と言った場合、1位を目指すのか、上位10位以内なら良いのかが不明確であるため、「刑法犯認知件数（人口比）で全国上位5位以内を維持」のように、客観的な順位や数値を明記すればいいと思う。</p>	<p>安全や安心という概念のうち、安全の面で刑法犯認知件数を人口比で示す「犯罪率」は安全度を計る客観的な指標として重要である一方、安心面での成果は数値や順位のみで評価できるものではありません。</p> <p>このため、本計画では、県民が安全で安心して暮らせる状態を高い水準で維持することを目指す趣旨から、順位や数値ではなく「トップレベル」という表現を用いています。</p>
3	A	1	<p>長崎県では、「二セ電話詐欺」と表現していますが、警察庁の資料では、「特殊詐欺」と表現されているようです。したがって、「二セ電話詐欺（特殊詐欺）」と表現してはいかがででしょうか。または、「注）」のところに、「長崎県では、令和4年から特殊詐欺を二セ電話詐欺と呼称することとしています」旨を付け加えるとよいのではないかと考えます。</p>	<p>ご意見のとおり、長崎県では、令和4年から「特殊詐欺」を「二セ電話詐欺」と呼称しています。</p> <p>県民の皆様に分かりやすくお伝えするため、「二セ電話詐欺（特殊詐欺）」と表現し、第1章「計画策定の趣旨」に注釈を追加します。</p> <p>※変更後の記載 注)長崎県では、令和4年から、県民の皆様に分かりやすくするため、特殊詐欺を「二セ電話詐欺」と呼称しています。</p>
4	A	18・21	<p>防犯ボランティア団体数・構成員ともに減少傾向にあり、高齢化が進んでおり、単に「参加を促す」「重要性を呼びかける」だけでは、現役世代（若手）が時間を割くことは構造的に困難と思われるため、代替案として</p> <p>①物理的なパトロールだけでなく、自宅で可能な「サイバー防犯ボランティア」の枠組みを作る。</p> <p>②企業のCSR活動や大学生の単位認定・就活実績として評価される仕組み（認証制度など）を導入し、メリットを明確にする。</p> <p>③「ながら見守り（ランニングや犬の散歩中）」への登録ハードルを極限まで下げるアプリ等の導入</p> <p>はいかがででしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、防犯ボランティア団体は減少傾向にあり、高齢化や後継者不足が課題となっています。</p> <p>このため、本計画では、第3章第3節1「防犯ボランティアの活動」において、県民や事業者など多様な主体による防犯活動の重要性を記載しています。</p> <p>また、代替案につきましては、次の対応を図ることとしています。</p> <p>①サイバー空間における安全確保については、既存のサイバーセキュリティボランティア事業を第3章第3節5「サイバー空間における安全確保」に記載済みです。</p> <p>②活動が活発な企業・団体に対する知事表彰制度について、第3章第3節の「コラム 防犯活動の紹介」に追記することとします。</p> <p>※変更後の記載 末尾に、なお、優れた活動を行った団体には知事賞を授与しています。</p> <p>③本県では、安全・安心まちづくり宣言事業を推進しており、その中に「ながら見守り」の取組も含まれております。「ながら見守り」は、県民の方が日常生活の中で無理なく活動するものであって、内容の理解や取組の促進につながるよう、第3章第3節1「防犯ボランティアの活動」の末尾にその活動内容がわかりやすいよう注釈を追加します。</p> <p>なお、アプリの導入については参考にさせていただきます。</p> <p>※変更後の記載 注)「ながら見守り」とは、散歩や買い物などの日常生活や業務を行う中で、無理のない範囲で周囲の状況に注意を払い、こどもや高齢者等の安全を見守る活動です。</p>

番号	区分	頁	意見の趣旨	県の対応・考え方
5	A	18	「CSR（企業の社会的責任）」という言葉自体が、全ての県民に浸透しているとは限らないので ①「事業者による社会貢献としての防犯活動（防犯CSR活動）」と日本語の説明を先にするか、より噛み砕いて「企業が地域のために行う見守り等のボランティア活動」と言い換えればいいと思う。	ご意見を踏まえ、県民の皆様に分かりやすくお伝えするため、第3章第3節「2事業者等による活動」の記載について修正します。 ※修正後の記載 地域の防犯活動の担い手不足が懸念される中、事業者による社会貢献としての防犯活動（防犯CSR活動）は、新たな防犯活動の形として大いに期待されています。
6	B	25	各取組みについては、具体的な内容を記載しているものが大半ですが、「インターネットリテラシー向上に向けた取組み」など漠然とした書き方をしているものがあります。具体的な内容を記載した方が、県民はイメージしやすいと思います。	インターネット上には、違法・有害情報や犯罪を誘発・助長する情報が氾濫しており、子どもから大人までを対象に、適切な判断力や規範意識を身に付けることが重要であると認識しています。 本計画では、第4章第4節1の (1)③「防犯講習会の実施」 (2)②「サイバー空間における規範意識の向上」 (3)④「犯罪情勢に的確に対応した情報発信」 などの関連項目において、具体的な取組内容を記載しており、これらを通じてインターネットリテラシー向上に向けた取組を総合的に推進してまいります。
7	B	25	闇バイト（犯罪実行者募集情報）への応募防止に関して、「危険性を周知」「広報啓発」を中心としていますが、応募者は経済的に困窮しているケースや、一度応募すると脅されて抜け出せないケースが多く、単なる「知識（リテラシー）」だけでは防げない現実があるため、代替案として ①相談窓口の周知だけでなく、「脅されていても警察が保護する（逮捕されないケースがある）」という免責や保護の仕組みを具体的に強調する。 ②SNSプラットフォーム事業者に対しフィルタリング強化やAIによる警告表示を県レベルでも強く要請・連携する。 などいかがでしょうか。	本計画は防犯に関する行動計画であり、闇バイトについては、犯罪の加害者となる前に抑止する観点から、現状や危険性を周知・啓発することが重要であると考えており、第3章第2節5「サイバー空間の脅威と深刻化」及び第4章第4節1(1)②「インターネット・リテラシー向上の推進」において関連する取組を記載しています。 なお、①免責や捜査対応に関する具体的記載については、個別の捜査上の配慮が必要であるため、本計画への記載は控えますが、②SNS事業者との連携強化については、今後の取組の参考とさせていただきます。
8	A	34	新規項目として「こども場所」が挙げられていますが、これが物理的な場所（施設）を指すのか、抽象的な概念なのか、既存の「居場所」とどう違うのかが直感的にわかりにくいので、 ①「こどもが安心して過ごせる居場所（こども食堂、児童館、プレーパーク等）」と具体例を併記するか、名称を「こどもの安心な居場所づくり」等の一般的な表現にしたらいかがでしょうか。	素案記載のとおり、こどもの居場所や体験の機会を「こども場所」と定義しており、このうち、こどもの居場所につきましては、物理的な「場」だけでなく、オンライン空間などの多様な形態があり得るものと考えております。 ご意見を踏まえ、第4章第4節2(4)「④こどもの居場所や体験の機会（こども場所）の充実」の記載を修正します。 ※修正後の記載 こどもが安全・安心に過ごせる多様な居場所（こども食堂、フリースペース等の物理的な「場」のほか、オンライン空間などの多様な形態を含む）やワクワクする体験の機会を「こども場所」と位置づけ、その充実を図ることで、こどもが主役の、みんなで育てる環境づくりに取り組みます。

番号	区分	頁	意見の趣旨	県の対応・考え方
9	B	18 ・ 36	<p>「高齢者等の多様な見守り体制の整備」に関し、高齢者自身が見守りの対象（被害者）となりやすい中で、高齢者に防犯の担い手（シルバー防犯パトロール等）を期待し続けるのは、体力面・安全面で持続可能性に懸念があるため、代替案として</p> <p>①「人」による監視から、「防犯カメラ」や「IoTセンサー」等の機械警備への補助金比率を高める。</p> <p>②活動内容を「見回る」から「自宅前での挨拶運動」や「花の水やり時の監視」など移動を伴わない負担の軽いものへシフトさせる記述を増やす。</p> <p>などはいかがでしょうか。</p>	<p>本計画では、高齢者を防犯活動の担い手として一律に期待するものではなく、第4章第4節2(5)①「高齢者等の多様な見守り体制の整備」において、孤立防止や地域とのつながりづくりの観点から自主的な活動を支援する趣旨で記載しています。</p> <p>なお、①ICT・IoT機器の活用については、地域における見守り体制づくりを担う市町と今後も情報共有を図ってまいります。</p> <p>また、②ながら見守りなど、負担の少ない形で参加できる取組については第3章第3節1「防犯ボランティアの活動」に記載していますが、活動内容が分かりやすいよう注釈を追加することとします。</p> <p>※変更後の記載 注)「ながら見守り」とは、散歩や買い物などの日常生活や業務を行う中で、無理のない範囲で周囲の状況に注意を払い、子どもや高齢者等の安全を見守る活動です。</p>
10	B	38	<p>市町が管理する公衆トイレに関しては、記載している取組みのどれかに含まれていると思いますが、犯罪防止に市町と連携して取り組む観点から、「環境づくり」に記載してはいかがでしょうか。</p>	<p>県が管理する公衆トイレについては、第4章第4節3「環境づくり」の(1)②「公園の維持・保全」の中で、防犯に配慮した施設整備として取り組むこととしています。</p> <p>市町管理施設については管理主体や設置環境がそれぞれ異なることから、本計画において個別の記載は行っておりませんが、市町や関係機関と連携しながら防犯対策の推進に努めてまいります。</p>
11	B	45	<p>取組項目のみならず関係課が多いため、計画の実施に対する管理方法（進捗管理）についてどのように行うか、明記してはいかがでしょうか。</p>	<p>本計画の進捗管理については、第5章第2節「長崎県犯罪のない安全・安心まちづくり推進会議」において各部署が取組状況や進捗状況の報告を行い、その結果をとりまとめています。</p> <p>これらの内容は、毎年6月頃を目途に県ホームページで公表しており、引き続き適切な進捗管理に努めてまいります。</p>
12	A	46	<p>多くの取組項目があるなかで、数値目標をどのような考え方で設定したのか示した方が良いと思います。表の上で示すなど。</p>	<p>ご意見を踏まえ、どの取組項目に対応する数値目標であるかが分かるよう、数値目標の欄に該当ページを明記するなど、分かりやすい表記となるよう修正します。</p>
13	B	46	<p>地域づくり番号10の「ながさきファミリープログラム」の参加者満足度について、満足度と地域づくりとの関連性を教えてください。</p>	<p>県では、第4章第4節2(4)①「家庭教育支援事業」として、保護者等が自身の子育ての悩みや体験をワークショップを通して語り合い、楽しく子育てのヒントを得られるように構成された参加型の学習プログラム「ながさきファミリープログラム」の活用を働きかけ、県認定のファシリテーターを派遣し、各市町での取組を推進しています。</p> <p>家庭だけでなく、地域総ぐるみで子育てを支援する意識を醸成することで、安全で安心な地域づくりやつながりの強化につながるものと考えています。</p>
14	B	46	<p>実施回数・開催回数が数値目標となっている項目がありますが、参加者数等を数値目標にしてはいかがでしょうか。</p>	<p>取組項目の中には、参加者数の増加よりも、継続的・反復的な実施そのものが重要なものもあるため、それぞれ事案の特性に応じて実施回数や開催回数を数値目標として設定しています。</p> <p>引き続き、取組の目的に応じた適切な指標設定に努めてまいります。</p>